



地域ケア推進会議検討事項

< 単身高齢者等への支援、孤独・孤立対策について >

令和5年3月開催

岡山市 保健福祉局 高齢福祉部 地域包括ケア推進課

1. 孤独・孤立対策について

『 孤独・孤立の定義、国の対策 』

今後、単身高齢世帯の増加が見込まれる中で、孤独・孤立の問題の深刻化が懸念

孤独・孤立とは

「孤独」は主観的概念、ひとりぼっちと感じる精神的な状態
「孤立」は客観的概念、社会とのつながりのない/少ない状態

- ・ 人生のあらゆる場面で誰にでも起こり得るもの
- ・ 当事者個人の問題ではなく、社会環境の変化により孤独・孤立を感じざるを得ない状況に至ったもの
- ・ 当事者の自助努力に委ねられるべき問題ではなく、社会全体で対応しなければならない問題
- ・ 心身の健康面への深刻な影響や経済的な困窮等の影響も懸念

新型コロナウイルス感染拡大が収束したとしても、社会に内在する孤独・孤立の問題に対し、政府は孤独・孤立対策担当室を設置し、必要な施策を着実に実施

◇孤独・孤立対策の重点計画（令和4年12月26日孤独・孤立対策推進会議決定）

- (1) 孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする
- (2) 状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる
- (3) 見守り・交流の場や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う
- (4) 孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動をきめ細かく支援し、官・民・NPO等の連携を強化する

日常生活の場である地域など社会のあらゆる分野に孤独・孤立対策の視点を入れ、すべての人のために、広く多様な主体が関わりながら、人と人との「つながり」をそれぞれの選択の下で緩やかに築けるような社会環境づくりを目指す必要がある

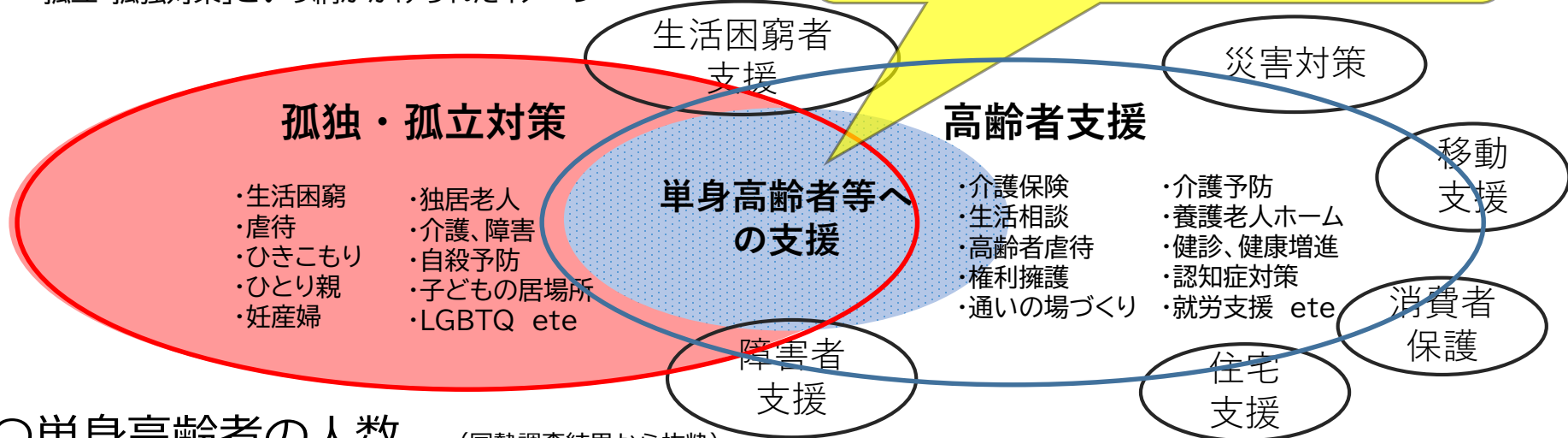
関係課で施策の共有・連携を行い、既存事業の改善・見直しや新規事業の拡充を検討していく

2. 単身高齢者等への支援について

○高齢者支援と孤独・孤立対策の関係

- ・高齢者支援の対象者のうち、単身高齢者等に対して「孤立・孤独対策」という網がかけられたイメージ

単身高齢者や支援を必要とする高齢者のみの世帯に対し、孤独・孤立対策の視点を持って、幅広く支援を検討する必要がある。



○単身高齢者の人数 (国勢調査結果から抜粋)

・H22からR2の10年間で高齢者のうち単身者の割合が2%、実数で約1万人増加(1.4倍)。特に東区、南区で割合が伸びている。

	H22高齢者数	内) 単身者	単身者の割合	R2 高齢者数	内) 単身者	単身者の割合
全市	151,140人	25,740人	17.03%	185,732人	35,368人	19.04%
北区	62,443人	11,885人	19.03%	74,229人	15,539人	20.93%
中区	29,929人	5,826人	19.47%	38,220人	7,986人	20.89%
東区	24,382人	3,272人	13.42%	28,622人	4,311人	15.06%
南区	34,386人	4,757人	13.83%	44,661人	7,532人	16.86%

3. 地域ケア連携会議からのまとめ

○単身高齢者等に関する地域の課題と対策

- ・R4年度地域ケア連携会議では、各福社區の地域包括支援センターごとにテーマを設定し、住民同士の支え合い活動を行っている者が集まり、それぞれ、地域の現状・活動内容・課題・解決策等の意見交換を行った。
- ・単身高齢者や支援が必要な高齢者のみの世帯が増加し、頼れる親族が近所におらず、地域で支えざるを得ない現状が、各福社區で共通してみられた。

地域が抱える単身高齢者等の課題の例

- 見守り、安否確認が必要な単身者
- 孤独死する、様子がわからない世帯
- 認知症状への対応、徘徊者探し
- 災害時の避難に不安・困難がある
- ゴミ出しや庭木の剪定ができない
- 移動手段がない（免許返納・歩行困難）

地域が行っている対策の例 (全ての学区で行われてはいない)

- 見守りグループの結成
 - ・高齢者世帯のマップを作成し地域で共有
 - ・4～5世帯ごとに隣組を作って支え合う
 - ・連合町内会と消防団でタッグを組む
 - ・地区の郵便局や民生委員と協働する
- 高齢者や独居の人を連れ出す通いの場づくりの取組
- 生活支援サポートを行うグループを結成
- 地域主体の移動サービスを開始

行政

- ・どう広げるか？
- ・どう支援するか？
- ・新しい課題はあるか？